

## 担 当 講 座

テーマNo.1	<b>今日から金持ちになる準備をしよう。</b>
内 容	<p>ゼロ金利の時代に銀行に預金するのと銀行の株を買うのとどっちがいいだろうか。答えは明白だが、半分以上の日本人は銀行に預け、高い手数料も文句ひとつ言わず払う。また、格好良さを求め、自分へのご褒美と名付け、大事なお金を消費する。そうするうちに、老人になっている。もう遅い。どうしたらいいだろうか。勉強が好きな人だけ塾に行って、それ以外の人は塾に行く費用を未来の自分のために投資する。具体的には株(ファンド)を少しずつ買うことである。株は配当金が付くため、複利での運用ができる。時間のパワーが期待できる。しかし、株を直接売り買いするのはギャンブルであり、避けなければならない。ところで、ユダヤ人は13歳から投資を行う。日本はお金の教育に非常に遅れている。預金中毒、投資文盲とも言える。しかし、高校生からなら十分間に合う。お金に関する教育を通して、社会を学び、自分の人生を豊かにするための入門である。</p>
テーマNo.2	<b>豊かな国と貧しい国、豊かな地域と貧しい地域の違いから学生たちが学ぶべきこと。</b>
内 容	<p>世界には多くの国々があるが、豊かな国もあれば、貧しい国もある。スイスは約200年前まではヨーロッパで最も貧しい国の一つだったが今は世界トップレベルの国に変わっている。一方で、東南アジア諸国は稲作に恵まれながらも豊かではない。また、日本国内でも、太平洋沿岸地域と日本海沿岸地域との間には格差がある。さらに、日本海沿岸地域のなかでも石油資源の発掘で発展した新潟県と秋田県だが、現在の様子はかなり異なる。長岡市は日本で6番目の地方機械金属の集積地であるが、秋田市は機械工業の集積はあまり見られない。本講座は、スイスの事例、東南アジアの事例、長岡と秋田の事例を紹介することで、勉強も部活も自分の長所を活かした独自の方法でやっていくことを勧めるためのものである。</p>
テーマNo.3	<b>十分杯から幸せになる道を学ぶ。 —他人と自分との違いを認め合う—</b>
内 容	<p>「幸せ」の反対語を「怒り」として捉えて話を進める。人は怒った後は大概後悔するが、なぜだろうか。怒らないわけにはいかないだろうか。この問いに対する答えを、江戸時代から長岡藩に伝わる「十分杯」という不思議な杯を持って紐解いていく。自信過剰、世間知らずがもたらす怒りを、「足るを知る」という教訓を持っている十分杯を知り、「他人と自分との違いを認め合う」ことで残りの人生を幸せにしていこう。</p>